

島根県立大学浜田キャンパス研究紀要『総合学術論叢』執筆要領

1 原稿の種類

形式区分としては、論文、研究ノート、書評、翻訳、その他とする。

2 投稿申込

投稿申込は所定の申込書を添え、浜田キャンパス教育研究活動委員会（以下「委員会」という。）に提出するものとする。

3 提出原稿について

原稿は電子媒体（PDFおよびWordファイル）で提出する。

提出期限は厳守し、期限を過ぎた場合は、掲載できない場合もある。

原稿提出にあたっては、「島根県立大学浜田キャンパス研究紀要『総合学術論叢』編集規程」を遵守すること。

4 論文の採否

投稿論文の採否および修正要請等の決定は、査読を経て委員会が行う。査読者は論文毎に各2名とし、委員会が決定する。論文の掲載順序その他編集に関することは、委員会が決定する。

5 校正

校正は三校までとし、初校・二校は著者及び委員会の校正とする。三校は委員会の校正とする。校正での大幅な文章の変更は認めないこととし、字句の訂正程度に留めるものとする。

著者校正の提出期限は厳守するものとし、期限を過ぎた場合、発行時期が遅れ他の著者に迷惑をかけることになるので提出期限には十分留意すること。

6 原稿の記述

① 原稿は、和文または英文とし、A4サイズの用紙で横書きを原則とする。

② 1ページ当たり行数は和文で40行とし、1行当たり文字数は40文字とする。
英文で40行とし、1文字当たりの大きさは10.5ポイントとする。

③ 原稿の文字数は別表のとおり。

④ 和文原稿は、原則として、現代かなづかい、当用漢字を用いることとし、地名、述語は当該原稿の関係する学問分野の使用方法に従って表記する。

⑤ 表題、著者名、目次、本文、注、参考・参照文献、図、表、写真、キーワード等から構成されるものとする。

⑥ 表題・著者名・目次・本文は明朝体（英文の場合はTimes New Roman）とし、見出し（本文及び、注、参考・参照文献、図、表、写真、キーワードを含む）は、強調体とする。なお、本文中の図〇〇、表〇〇、写真〇〇は、明朝体（英文の場合はTimes New Roman）とする。

⑦ 原稿には、本文が和文の場合には半角英字、シングルスペースで過不足が無いよう1～2ページ以内（400語以内）の英文抄録（表題、著者名、本文）を原則添える。

⑧ すべての原稿は、3語以上10語以内のキーワード（和文、英文を問わない）をつける。

⑨ 原稿の最後に「（ローマ字での著者名）」を付記する。

形 式	字 数	内 容
論 文	12,000 字以上 30,000 字以内 (英文) 7,800 語以上 19,500 語以内	新たな研究の分野、既存の研究に新たな地平を拓こうとするもの。既存の知見に新たな知見を加えたもの。既存の知見を新たな視点から整理したもの。(注1)
研究ノート	12,000 字程度	研究上の問題提起、他の著書を批評する論文、外国書の紹介・批評など。(注2)
書 評	8,000 字程度	(注2)
翻 訳	論文に準ずる	外国語の文献など。
そ の 他	書評に準ずる	学会報告、研究動向、調査報告、学界動向等。(注3)

表注 1：提出原稿が本表で定める論文の字数制限の下限を満たしていない場合、当該原稿を提出する者は、字数制限の下限を満たしていないにも関わらず、論文の内容要件を満たしていると判断した根拠を記載した理由書（様式自由）を原稿に添付すること。

注2：字数が少ないものに関しては、内容を勘案しつつ、その都度委員会で掲載の可否を判断する。

注3：但し、文字数については内容を勘案しつつ委員会で判断することができる。

7 全体構成

① 原稿の構成とアブストラクト

本論は以下の順で構成する。

- ・ 表題
- ・ 著者名
- ・ 目次（ノンブル不要）
- ・ 本文
- ・ 注
- ・ 参考・参照文献
- ・ キーワード

欧文アブストラクトは巻末にまとめて原則、掲載する。

- ・ 表題
- ・ 著者名
- ・ アブストラクト

② 見出し

見出しには算用数字を付ける。

大見出し はじめに、1. 2. 3. 4. ……おわりに

中見出し (1) (2) (3) (4) ……

小見出し 1) 2) 3) 4) ……

8 注

注は、本文中の当該箇所に上付き文字で¹⁾とナンバーをつけ、まとめて本文の末尾に記載する。注記の文章の末尾には、句読点（和文は「。」、英文は「.」）を必ず付すこと。

9 引用

① 研究者名の表記

本文中で他の研究者に言及する場合、初出時にはその氏名をフルネーム表記する。外国人研究者の場合も同様とし、カタカナ表記（マーガレット・サッチャーまたはM. サッチャー）、アルファベット表記（Margaret ThatcherまたはM. Thatcher）いずれでも構わない。

② 文献を示す割注

典拠した文献を示す割注を本文に入れる場合は、（著者名 出版年）とする。

文献からの引用は、（著者名 出版年：引用ページ数）。

10 文献

[文献リスト]を[注]と別につける場合に、著者または編者（共著・共編著の場合は筆頭者）の姓のアルファベット順に、和文も欧文もあわせてリストアップする。漢字名の著者については著者本人のアルファベット表記による。

外国文献の表記については、本文・注とも、著書・雑誌名はイタリック体にする。

① 書籍の場合

著者のファミリーネーム又はファーストネーム ミドルネーム（以下著者名という場合同じ順で）、タイトル：サブタイトル、出版都市名、出版社名、出版年

※著者名のファーストネームはイニシャルのみにしても良いが、一つの論文のリストでは統一が望ましい。

※和文書の場合に出版都市名は不要。

② 雜誌論文の場合

著者名、論文のタイトル、雑誌名、巻（号）、出版年、論文の初頁—終頁（英文では pp. ）

③ 翻訳書（論文）の場合

原典の書誌情報（=訳者名訳『訳書のタイトル』出版社名、翻訳の出版年、初頁—終頁）

※「」（）『』“”．．；スペースの使用方法は、総合学術論叢での使用ルールに基づくこと。なお、和文は全角（1文字分）、英文は半角とする。

11 ルビ・図表

① ルビはデータ変換時に削除されてしまうことがあるため、初出時に当該文字の後にカッコ書きで表記する。

② 図版については、図1、図2、図3……、表1、表2、表3……と番号を付ける。データ提出時には、図版のみ別ファイルに保存する。

※ワードなどの文書に別のソフトで作成した図表を張り込みしているような場合は、もう一つ図版のみのファイルを作成する。

12 裏表紙に執筆者一覧を記載するので、執筆者の専攻を別紙で記載すること。

13 表記について

① 和文は、句読点やカッコ記号も含めて全角文字、欧文および算用数字は句読点やカッコ記号も含めて半角文字を使用する。和文中にある欧文文字も半角文字を使用する。

② 数字は原則として算用数字「1、2、3……」を用いる。漢数字「一、二、三……」は

「第一歩」「第三世界」など、漢数字を使わないと不自然な場合に限る。判断の難しい場合には論文内で統一する。

- ③ －（ダッシュ）は1文字分とする。
- ④ ・・・は、……とする。
- ⑤ ○○年－○○年（「年」がある場合もない場合も同じ）は、○○年～○○年とする。
- ⑥ 数字は、2桁以上は半角、1桁は全角とする。
- ⑦ 引用ページの表記方法は、和文は「5頁-6頁」、英文は「pp. 5-6」で統一すること。

附則

この要領は令和6年4月1日から施行する。